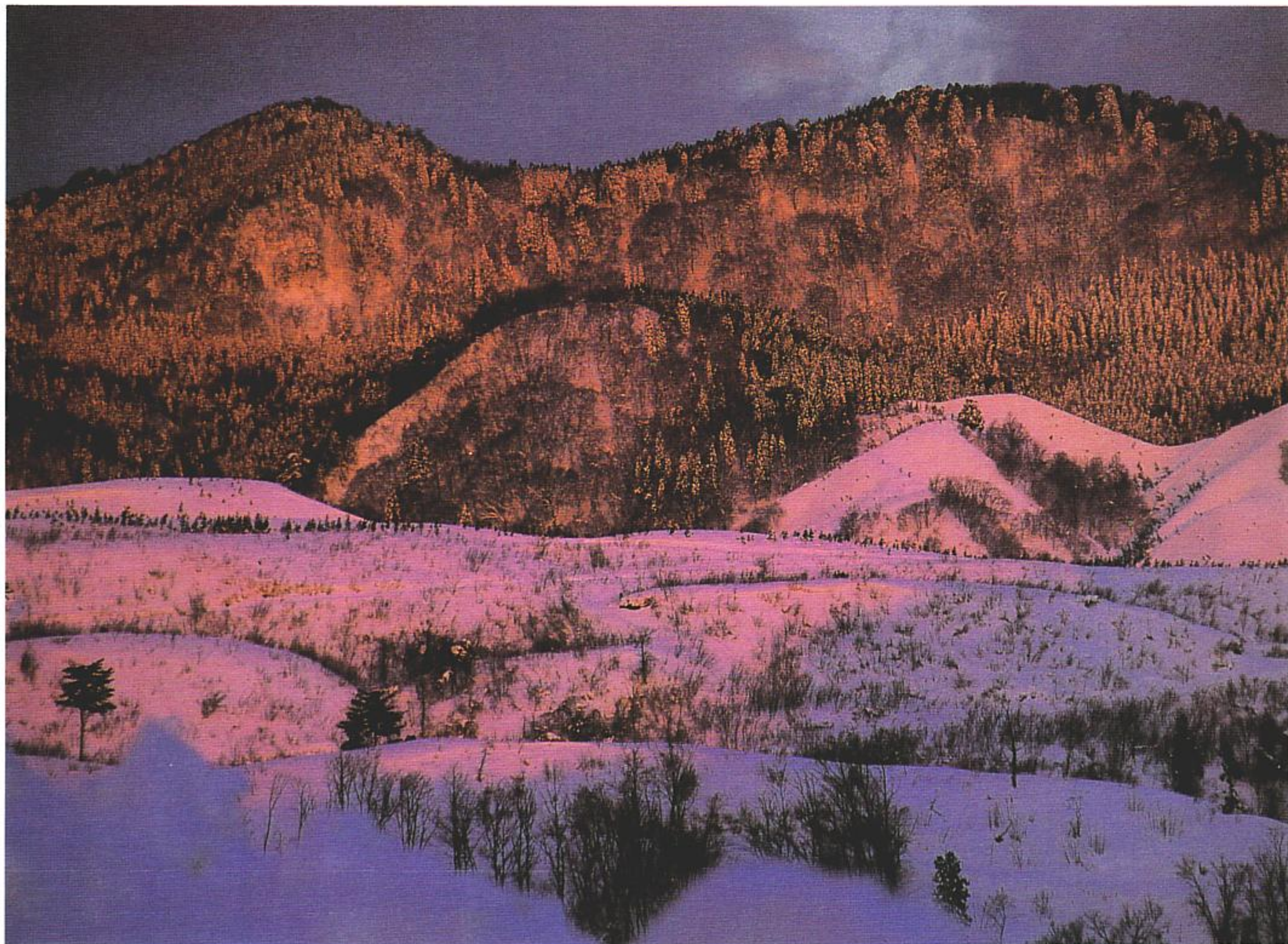




写真集「鳥海・鳥海山麓/由利の四季」より(撮影/初瀬武美・撮影地/智者鶴)

■主な内容

- 5年後、小学1年生は全校33人……………2・3
- 第4回婦人シンポジウム……………4
- 加入者2,900人。町国保の台所……………5
- 町のわだい……………6・7
- みんなのひろば……………8・9
- ねんきん通信ほか……………10
- ヨーロッパ研修レポート(3)……………11
- 郷土の野草ほか……………12

*

写真集「鳥海山麓/由利の四季」刊行

霊峰・鳥海を正面に据えて、本荘市を中心に広がる由利全域の自然美をうたいあげた写真集「鳥海・鳥海山麓/由利の四季」が、アマチュア写真家の初瀬武美さん(51歳・本荘市)によって刊行されました。

この写真集には、本町で撮影された美しい風景写真がたくさん紹介されており、「郷土愛にあふれた身近な写真集」として好評を得ています。

本紙では、初瀬さんのご協力を得てしばらくの間、初瀬さんが三年がかりで撮影した四季折々の風景写真で表紙を飾らせていただくことにしました。

なお、初瀬さんから同写真集が町に二十冊寄贈されました。町では各校に配分したほか、別に百冊を購入し関係団体に配布することになっています。

写真集をご希望の方は同発刊事務局(☎二三一〇五〇七)にお問い合わせください。価格は税込二千五百円です。

5年後、小学一年生は全校33人！ 若者減少、結婚難が出生率低下の要因に！！

町教育委員会が行った「児童・生徒数等の推移」の調査で、五年後の平成九年度、本町三小学校の新入学児童数が現在の半数を割る、三十三人になることがわかりました。同調査は、今年一月末現在の住民基本台帳をもとに、今後七年間の児童・生徒数を年度別に推計したもので、平成九年度の児童数を、八塩小百十二人、高瀬小百四十五人、大琴小五十人と見込んでいます。

今月号では、同調査をもとに児童・生徒数減少の実態を紹介しながら、その背景などについて考えてみます。

平成三年度の小学校児童数は、八塩小百六十八人、高瀬小二百三人、大琴小百八人の合計四百七十九人ですが、



写真は今年小学校に入学する子供たち（氷慶保育園にて）

〈図・1〉

〈平成3年度〉	八塩小	高瀬小	大琴小	計
1年	34人	32人	12人	78人
2年	21	29	18	68
3年	30	41	22	93
4年	26	32	10	68
5年	24	39	26	89
6年	33	30	20	83
計	168	203	108	479

〈平成7年度〉

	八塩小	高瀬小	大琴小	計
1年	18人	23人	10人	51人
2年	15	30	9	54
3年	27	24	6	57
4年	20	28	7	55
5年	34	32	12	78
6年	21	29	18	68
計	135	166	62	363

〈平成9年度〉

	八塩小	高瀬小	大琴小	計
1年	10人	18人	5人	33人
2年	22	22	13	57
3年	18	23	10	51
4年	15	30	9	54
5年	27	24	6	57
6年	20	28	7	55
計	112	145	50	307

児童数は年々減少し、平成七年度には三百人台、同十年度には二百人台になると推計されています。（図・2参照）

図・1は、現在と三年後、五年後の児童数を比べたものですが、五年後には八塩小が五十六人、高瀬小が五十八人、大琴小が五十八人と、ほぼ同じような規模で減少することが見込まれています。特に、大琴小にあっては現在の半数以下の人数になり、二、三年生を除いては各学年とも一桁台というシヨッキングな数字になっています。

新入学児童は、今年度七十八人だったのが平成四年度以降五十人台で推移し、平成九年度には三十三人に激減すると見込まれています。学校別では、

八塩小十人、高瀬小十八人、大琴小五人となっています。

中学生は平成15年に140人

東由利中学校の生徒数は現在二百二十八人で、今後平成九年度まではほぼ同人数で推移しますが、その後小学校児童数減にスライドし平成十年度から減少が目立ち始め、現段階の推計では平成十五年度に約百四十人になるものと見込まれます。

30歳以上の未婚者等は219人

児童数がこれだけ減少する最も大きな要因は、若者の減少、とりわけ婚姻が少ないことによる出生率の低下です。

今年の新入学児童は55人

今年小学校に入学する児童は、男23人、女32人の計55人です。もう入学準備は整ったでしょうか。春を待つ55人を紹介します。

〔八塩小・20人〕 (敬称略)

住 所	児童氏名	保護者
黒 渕	佐藤千絵美	幹 夫
〃	八嶋さや佳	浩
葎 沢	高沢 良美	吉治郎
向 田	横山 美嘉	嘉 男
智者鶴	横山 洋平	一 郎
高戸屋	小松 拓真	肇
〃	小松 史門	幸 生
下小屋	小野真奈美	和 男
時雨山	小野 光範	悟
〃	佐藤 大 薫	芳 雄
石 高	畠山 美幸	昇 美
下小路	畑山 未央	正 隆
五海保	高橋 恵	正
山 崎	高橋麻衣子	良 浩
〃	長谷山善幸	満
松 柴	小松真梨子	俊 一
館合新田	遠藤 由香	正
〃	佐野 新	貞 雄
〃	高橋 啓太	満

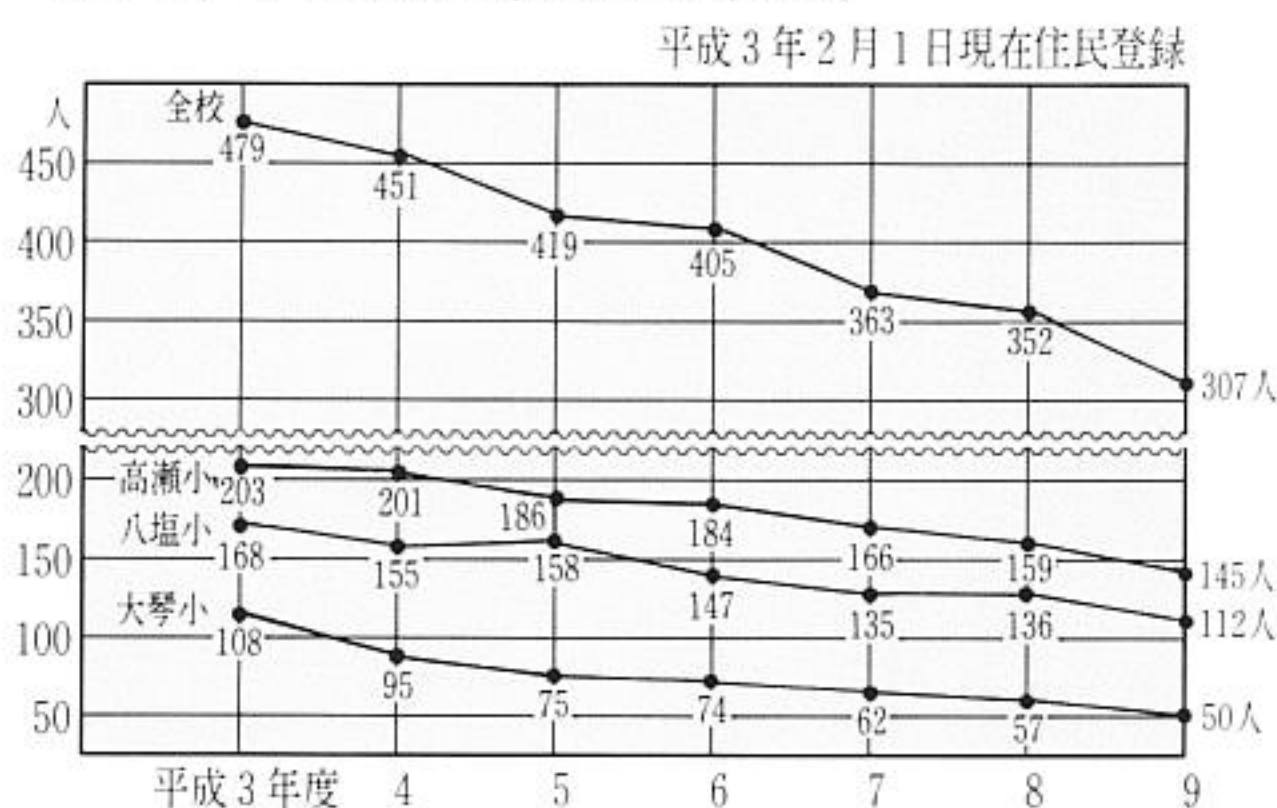
〔高瀬小・28人〕

住 所	児童氏名	保護者
新 町	小野 志穂	浩 市
〃	小松 茂靖	茂 穂
〃	佐藤 有紀	秀 夫
〃	高橋 岳大	正 明
横小路	長尾 洋平	孝 子
上 通	小松るみ子	信 行
〃	谷口 真梨	司
中 通	小松 晶子	俊太郎
下 通	佐藤 宣幸	幸 雄
〃	小松 朋未	徳 重
湯出野	長谷山未果	久 志
寺 田	佐藤 稔	透
〃	高橋 舞	義 一
茂 沢	畠山 和彦	正 志
〃	畠山 聡司	光 夫
横 渡	杉野こずえ	賢 一
蔵	大庭 広美	清 樹
〃	小松 信吾	信 記
〃	須田 倫子	清 隆
蔵新田	阿部 薫	清 和
宮ノ前	大日向里実	誠
野 田	遠藤 学	辰 雄
新 処	佐藤 拓哉	新 一
十二ノ前	阿部 志織	盛 喜
小 倉	遠藤真知子	幸 男
〃	遠藤三穂子	廣 男
〃	遠藤三香子	基
高 村	伊東 美和	茂 雄

〔大琴小・7人〕

住 所	児童氏名	保護者
大 琴	大日向和樹	和 弘
〃	大日向 梢	健 男
舟 木	大庭 健太	時 晴
〃	高橋 久美	興 一
宿	小野 達也	清 夫
大 台	木島 美穂	隆
杉 森	高橋 正人	栄 記

〔図・2〕 小学校児童数の推移(推計)



その一環として町では、資金貸し付けを主とした若者定住対策や縁組世話人報奨制度、第三子の保育料を全額免除する「すこやか子育て支援事業」などを設けていますが、あくまでも支援

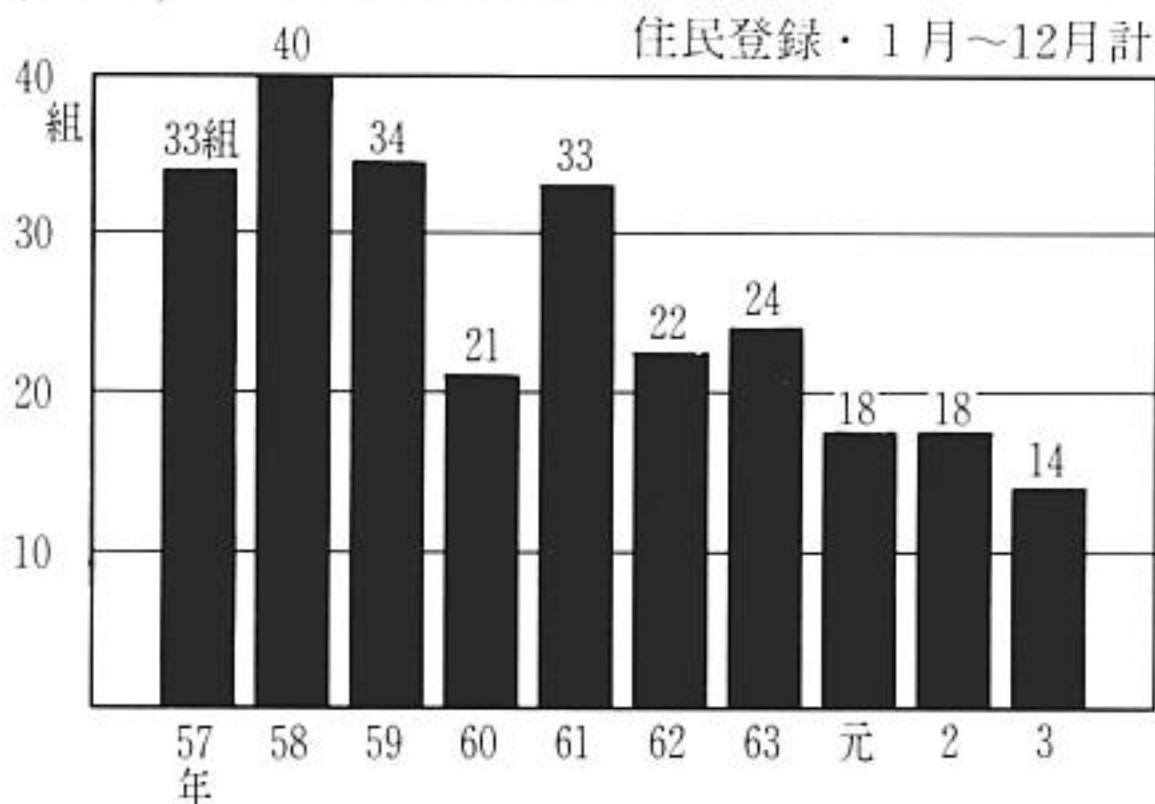
は男三百四十七人、女百三十二人で、「嫁一人に婿二・六人」という実態から特に男性の「結婚難」がうかがわれ、これが婚姻数を減らし、出生率低下の大きな要因になっているといえます。

新年度で「結婚奨励対策事業」

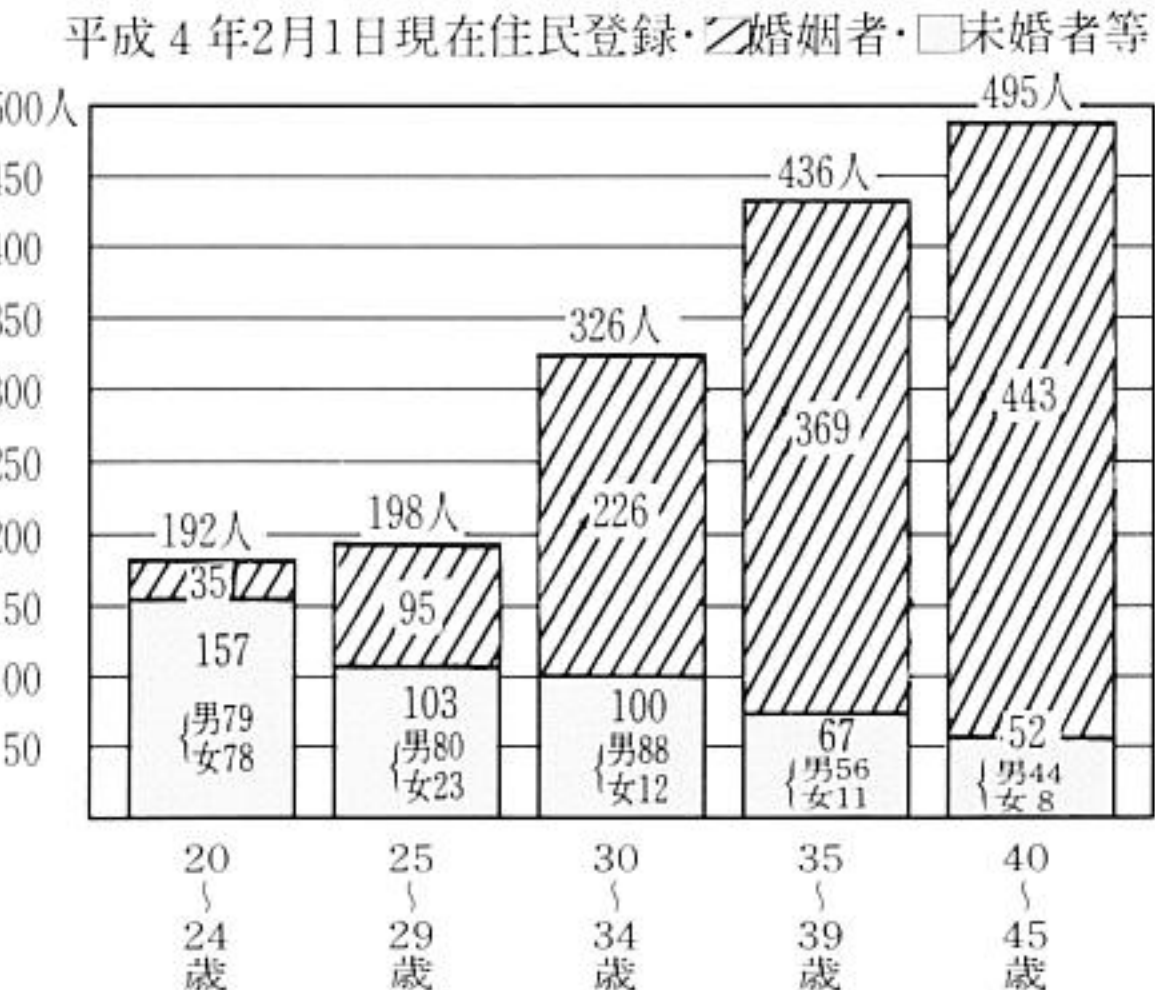
児童数減少の背景には「結婚したくても相手がいない」などの「結婚難」が潜在しているようですが、これには個人のプライバシーの問題も多く絡んでいることから、一筋なわけでは解決できない状態にあるのが実情です。

しかしながら、出生率の低下が今後町人口の大幅な減少を招くことは必至であり、それを阻止するにはどうしても出生率を上げていかなければなりません。そのためには、若者定住促進とともに、結婚難の解消、つまり「嫁・婿対策」が肝要です。

〔図・3〕 過去10年間の結婚数調べ



〔図・4〕 20～45歳婚姻等状況調べ



図・3は、過去十年間の婚姻の状況を調べたものですが、年々その数が減ってきていることがわかります。また図・4は二十歳から四十五歳までの婚姻の状況を調べたものですが、三十歳以上の結婚適齢者のうち二百十九人に配偶者がいない(以下「未婚者等」)ことがわかります。

二十歳から四十五歳までの未婚者等

的な施策であり、出生率の増加にはすぐ結びつきません。

このため町では、新年度から「結婚奨励対策事業」をスタートさせ、役場庁内にプロジェクトチームをつくり対策を練ることにしています。

また一方では、減少する児童数に対する学校運営についても、児童減イコール学校統合といった早計な展開ではなく、少ない児童の中でいかに有効に

学校を運営していくかを、これから真剣に考えていかなければなりません。

町民の皆さんからも、嫁・婿対策、学校運営などに対する意見・提言をお寄せください。お寄せいただいたものは内容により本紙で紹介させていただきます。

〒〇一五―〇二 東由利町老方

東由利町役場 広報担当 宛

☎〇一八四―六九―二二一〇

食生活と健康を考える

第4回婦人
シンポジウム

多様化した現代社会の中で、地域の課題を婦人の立場から探り語り合い、豊かで明るい町を築いていこうとする「東由利町婦人シンポジウム」が2月16日有鄰館で開かれました。

このシンポジウムは町婦人団体連絡協議会（小野貞子会長）と町公民館が4年前から開いているもので、今年は過去最高の270人余りが参加。健康問題をテーマに、熱心な話し合いを展開しました。



講演する阿部隆三氏

講演要旨

がん、心臓病、脳卒中は防げます

現在、三大死因として、がん、心臓病、脳卒中で六〇～七〇%を占めています。しかし現代の医学では、がんは早期発見で、心臓病や脳卒中は糖尿病や高血圧など原因となる病気を治療し是正することで防ぐことができます。

胃がんを防ぐには、年に一度検査を受けることです。大腸がんは便の観察で防ぐことができます。心臓病や脳卒中の予防は、コレステロールや血圧の管理が大切です。それによって心筋梗塞や動脈硬化を防ぐことができます。また、糖尿病とのかかわりが大きいので、その予防のためにも年に一度、眼底検査を受けてほしいものです。こうした成人病には食生活が大きく影響しています。特に、心臓や腎臓の悪い方、高血圧の方は、いうまでもなく塩分をひかえなければなりません。

食物繊維は大腸がんの予防に有効です。大腸には発がん物質があり、便を長く留めておくと、がんにかかりやすくなります。特に今の若い人は食物繊維の摂取量が少ないので、もっと野菜やきのこ、海藻、こんにやくなどを多く摂ってほしいと思います。中性脂肪が高くて動脈硬化になる人が増えていますが、これは昔に比べ動物性脂肪の摂取量が多くなっているためで、できるだけ植物性にかえてください。また、血管をきれいにするためには、サバやイワシなど青身の魚を日に一度は食べてほしいものです。なお、たばこは肺がんだけでなく、動脈硬化に対して非常に悪い影響を与えます。ぜひ止めてほしいものです。

健康問題について話し合った第4回婦人シンポジウム



シンポジウムは午前九時三十分開始、小野会長の開会のあいさつに続き来賓として出席した阿部町長が、「町では健康を第一に町づくりをすすめているが、自分の体は自分で守るのが基本。こうした機会を利用し健康の維持・増進について知識を深め合ってほしい」と励ましのあいさつを述べました。この後、岩館出身で

医学博士の阿部隆三氏（福島県郡山市在住）が、「食べ物と病気」と題し基調講演。阿部氏は阿部町長の弟で、専門の糖尿病や動脈硬化などの成人病について実例を紹介した後、食生活と病気とのかかわりについて分かりやすく講演しました。（要旨別記）

午後は「食生活と健康づくり」をテーマにフォーラムが行われ、本荘由利地区食生活改善推進協議会の佐々木良子会長を司会に、象潟町健康生活推進協議会副会長の向井ミホ子さん、西仙北町カエル村主唱者の佐々木正光さん、県生活学校連絡協議会（食品問題担当）の山崎愛子さんの三人が話題を提供し

ました。

この中で、「できるだけ添加物食品を避けるなど、主婦の役目として食事には十分気を配っている」、「合成着色料など、有害とわかっていても使っているのが実情。もっと自己防衛意識を高め実践していく必要がある」などの話題提供や、「子供の食事に対して親が気をつけても、祖父母が好みのものを与えてしまう」などの事例、「病気の食生活のかかわりについて婦人たちがもっと知識を身につけて、互いに情報の輪を広めあつていくことが大切」などの意見が出され、健康な食生活への関心をさらに深めました。

今年の国保税はいくらかな？

加入者二千九百人。町国保の「台所」

私たちの生活で重要な役割を担っているものの一つが医療です。

この医療にかかる経費の大部分を、私たちは健康保険から支払っています。

健康保険には職場で加入するものほか、農家や自営業の人などが加入する

国民健康保険（国保）があります。

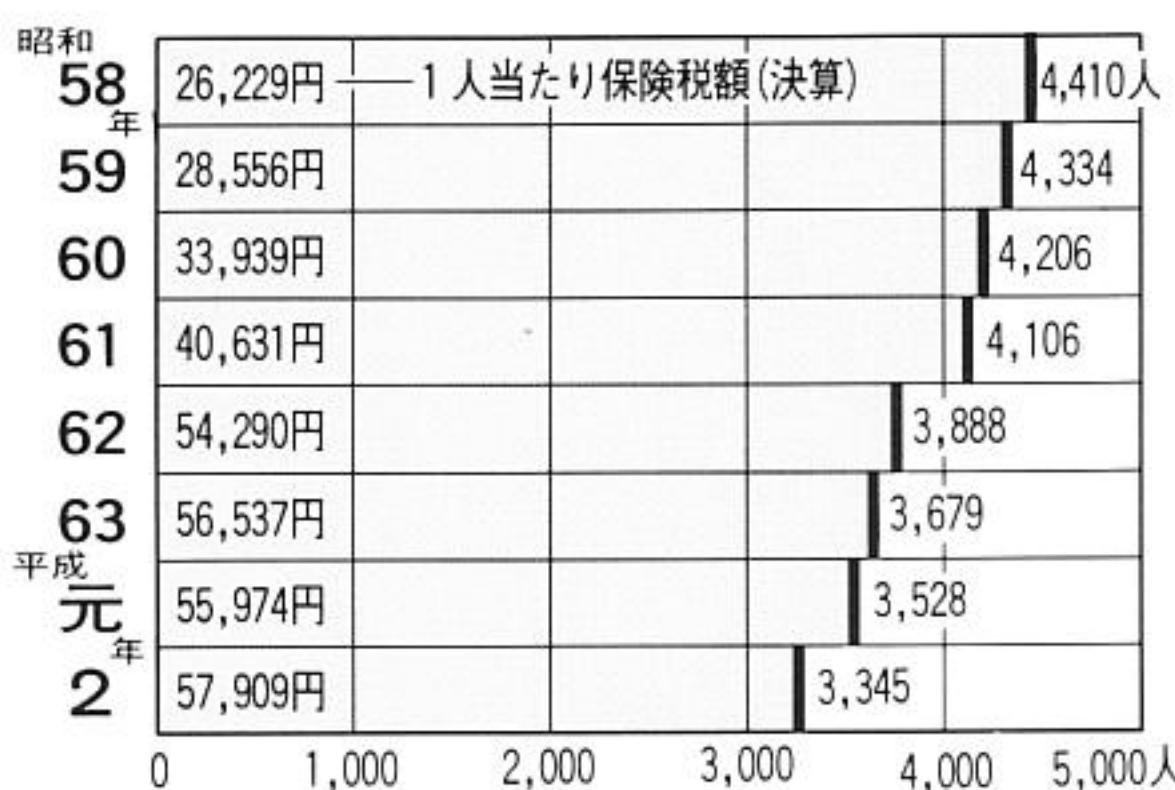
東由利町では現在、この国保に町人口の約五二％にあたる約二千九百人が加入しています（一月末現在）。

国保は、加入者の保険税や国の負担金などでまかなわれており、平成二年度では一億九千万円余りの保険税を加入者の皆さんからいただきました。加入者一人当たり換算すると約五万七千九百円（図・2参照）で、昭和六十二年以降平成二年度まで五万円台で推移しています。（図・1参照）

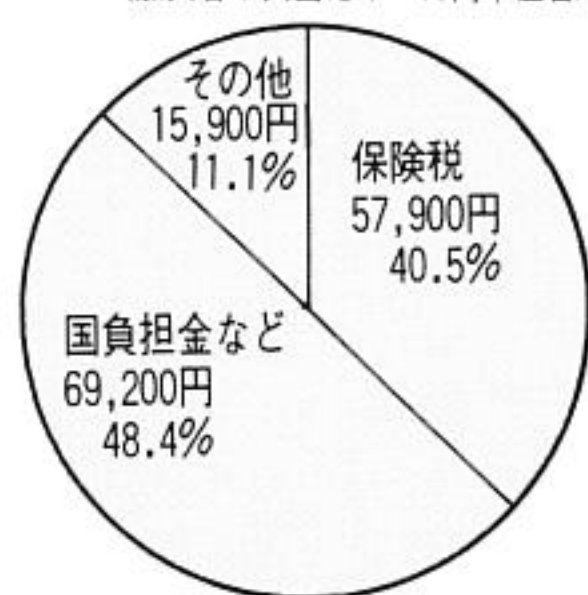
国保の予算では、医療費など一年間の支出を推計してから、保険税などの収入を算出しています。つまり、医療費が少なく保険税も少なくてすむこととなります。

ところで、町の国保ではどれくらいの医療費を支払っているのでしょうか。平成二年度の医療費は、支出全体の約七四％に当たる三億一千七百万円余りで、加入者一人当たりが約九万四千八百円を支払った計算になっています。（図・3参照）

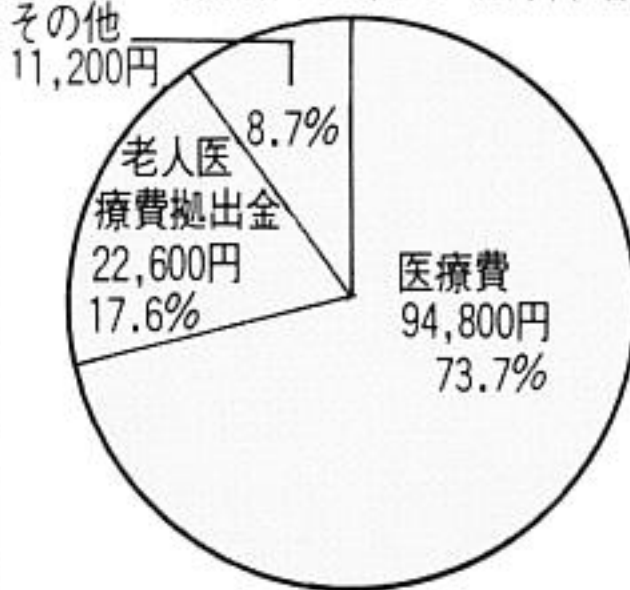
（図・1）国民健康保険加入者数と1人当たり保険税額の推移



（図・2）平成2年度国保決算・収入
（加入者1人当たり・10円単位省略）



（図・3）平成2年度国保決算・支出
（加入者1人当たり・10円単位省略）



町では現在、新年度予算を編成しているところですが、医療費は横ばいの状態にあることから、国保税も今年度並みになりそうです。

高額療養費、豆知識

（ ）は住民税非課税世帯

高額療養費は次のようなときに支給されます。

- ①同じ人が同じ月内に同じ医療機関に支払う自己負担金が六万円（三万円六千六百）を超えたとき、超えた分が支給されます。
- ②同じ世帯内に三万円（二万一千円）を超

える自己負担をした人が二人以上いた場合、その合算額が六万円（三万三千六百円）を超えた分が支給されます。

③一年以内に高額療養費の支給を四回以上受ける場合、四回目からは三万四千八百円（二万三千四百円）を超えた分が支給されます。

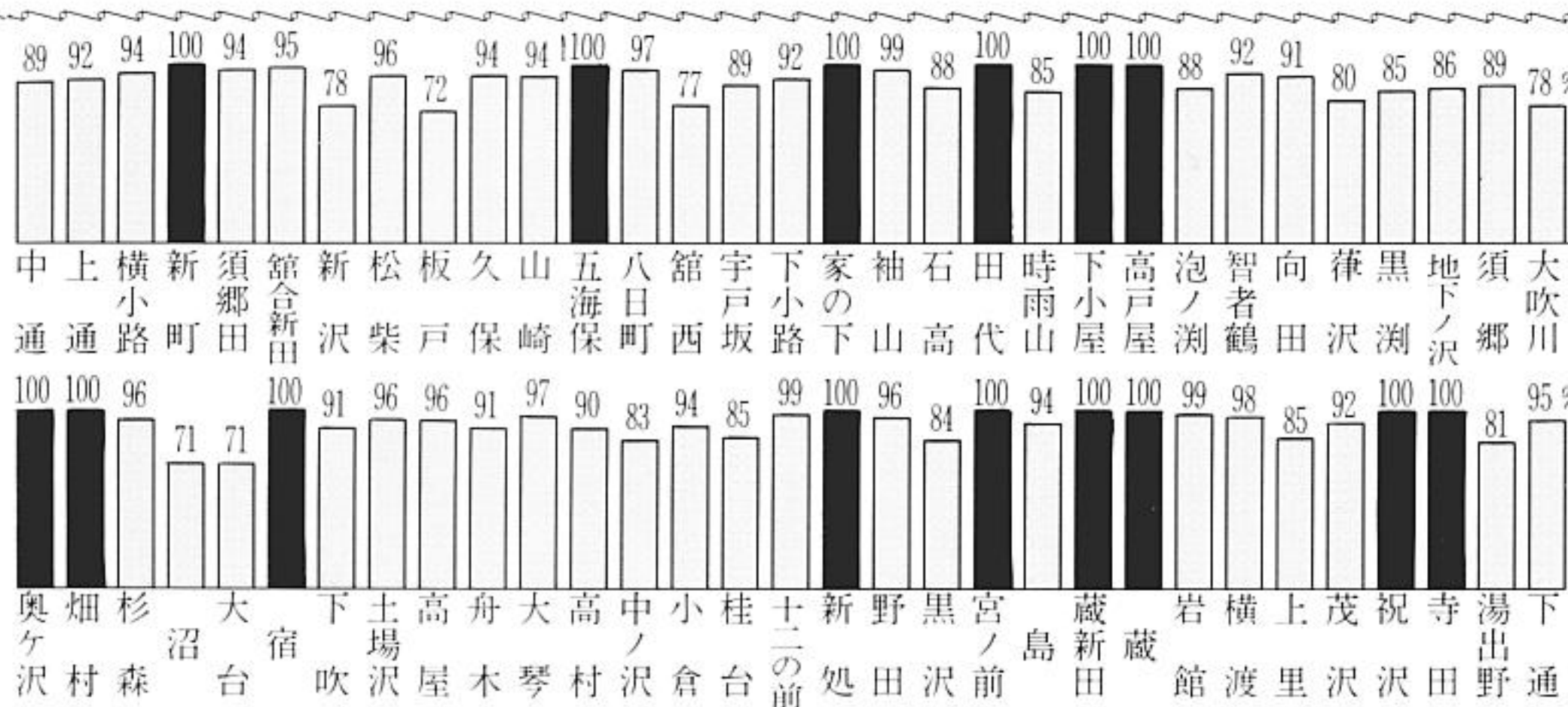
また、申請受付期間を毎月十日から二十日までと決めさせていただきました。支給（振込）は診療から二か月後で、医療機関からの請求状況や審査の過程などによっては二か月以上になる場合もあります。

なお、申請には▼印鑑▼医療費の領収証▼保険証▼預金通帳（口座番号・ただし郵便局を除く）が必要です。

忘れていませんか？国保税

平成三年度国保税（1/31納期）の収納率は二月十日現在九二％です。

自治会別では次のようになっています。すので、未納の有無をご確認のうえ、もしお忘れでしたら、お早目に納付ください。



田町のわだい TOPICS

厳しい寒さなどで入場者が約1,500人にとどまった今年の大平雪まつり



寒さ忘れ花火に大歓声 入場者はちょっと少なめ

昭和六十年に第一回目を開催し、今年で八回目を迎えた大平雪まつりが二月八日と九日の二日間、大平スキー場で開催されました。

とかくマイナスのイメージが強い雪を徹底的に楽しんでもしまおうというのがこの催しのねらいで、春の「黄桜まつり」に次ぐ冬の一大イベントとしてすっかり定着しています。

今年はスキー大会、雪上トライアスロン、大声コンテストなど恒例のイベントに、町商工会青年部主催の腕ずもう大会が加わったほか、目玉の花火大会が町内企業などの協力で行われ好評を博しました。

初日に厳しい寒さに見舞われたこと、二日目の日曜日が他の行事と重なったことなどが影響し、入場者の数は昨年より千三百人余り下回る千五百人余りにとどまりました。



目玉の花火大会は大好評。打ち上がるたび寒さを忘れ大歓声が湧き起こっていました。

ボランティアで町づくりを实践 寒中、若い職人さんたちが奉仕に汗

吹きすさぶ風が肌を刺すように冷たい二月八日、土曜日。町技能組合青年部（古関国雄部長）の皆さんが、壊れた机やイスを補修するため町の小・中学校に集まってくれました。もちろんボランティアで、この日は机やイスなどの備品や、天井、壁、ドアなど百五十件余りの修繕に汗を流しました。

このボランティア作業は、普段は仕事に追われている町内の若い職人さんたちが、労力にゆとりの出るこの時期をねらい十年以上も前から行っているもので、まごころのこもった社会奉仕として関係者から喜ばれています。

ものごとを「損得」で考えがちな現代社会で、この若い職人さんたちのボランティア作業は、「自分たちが地域のために何ができるのか」を身を持って示してくれている、町づくりの実践活動のような気がします。



学校備品などの修繕に汗する町技能組合青年部員

料金格安の新交通機関に人気 本荘→東京に直行バス誕生

本荘と東京を往復する夜間高速バスが二月十一日からスタートしました。

これは羽後交通とJR東北バスが提携し運行。本荘を午後八時五十分に出発し、東京駅までを山形自動車道・東北自動車道などを經由し九時間三十分（午前六時二十分到着）で結んでいます。東京駅からは午後九時二十分に出発、本荘には翌朝六時二十分に到着します。本地域と東京を結ぶ夜間の交通機関は、これまで寝台列車二本しかなく、また料金が片道九千円（往復一万六千二百円・子供半額）と格安なことなどから、この直行バスは手軽な交通機関として人気を呼んでいます。バスはドイツ製（定員29人・全席指定）で通常のものより一回り大きく、トイレ、電話、BGM装置などが完備されています。



本荘・由利地区に新しく誕生した東京直行バス「ドリーム鳥海号」

無欠席の30人に皆勤賞を贈呈 平成3年度ことぶき大学修了

平成三年度最後の「ことぶき大学」が二月二十一日朋楽荘で行われ、昨年五月からこれまで十一回開講してきた同研修事業に幕をおろしました。

今年度の研修生は二百十五人で、この日は百人が出席。うち一度も欠席しなかった三十人に皆勤賞、出席率のよかった十三人に精勤賞が、学長の青木町公民館長から贈られました。

今年度は、生きがいや健康づくりの学習などのほか、大曲市への移動研修運動会などを実施してきました。

閉講式で青木学長は、「学習の成果を家庭や地域で生かし、家族や地域の人たちに頼られるお年寄りになってください。そして来年度にはまた元気な姿でお会いできることを期待しています」と激励しました。



無欠席の30人に青木学長が皆勤賞を贈呈

「地方の時代がきつと来る」 川崎勲氏迎え議員研修会開催

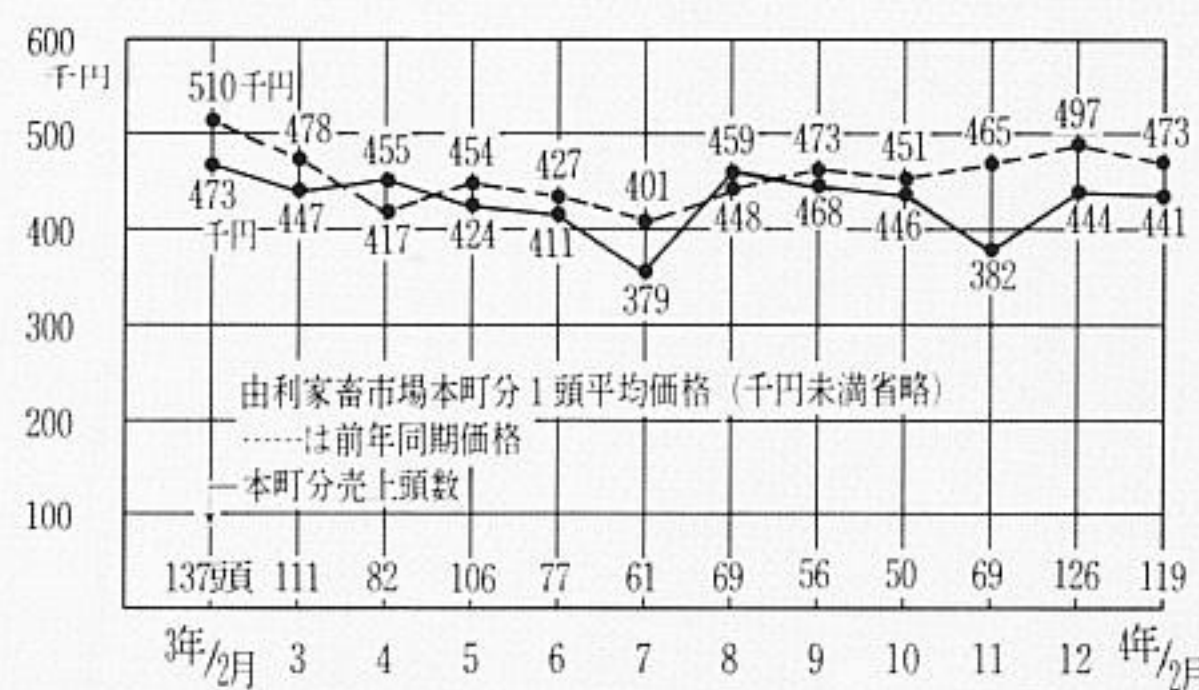
町議会が二月十八日、岩波書店社友の川崎勲氏（西目町在住）を迎え恒例の「議員研修会」を開催しました。

川崎氏は「よそ者のやぶにらみ」のテーマで、依然として一極集中が進む都市の実態と弊害について説明した後「地方は衣・食・住すべてにおいて人間が人間らしく生活できる場である。西目町に住みつき十四年になるが、住み心地に今も大満足している。今後、地方の価値観は徐々に増し、都市に住む人たちが地方の良さ、真の豊かさに気がつく時代がきつと来る。そうなれば都市と地方は逆さになるだろう」と述べ、さらに「若い人が都市に流れ人口が減るのは仕方のないことで、むしろ経験を得ることから考えるとそれでもいいと思う。流出防止策で施設などを整備しても、せいぜい隣の真似ごとにはすぎない。大事なことは地域文化を守り、都市に出た人たちが帰りたいと思う町を維持していくことではないか」などと、今後の町づくりの励みともなる言葉で講演を締めくくりました。



講演する川崎氏

●子牛価格1年間の動向（平成3年2月～平成4年2月）



子牛初競り 前年より三二万円安でスタート

子牛の初競りが二月八日と九日、本町の由利家畜市場で行われました。本町からは、昨年より十六頭少ない百三十一頭を上場、このうち百十九頭が競り落とされました。

一頭当たり平均価格は、前年より三万二千元安い四十四万一千円で、最高価格は八十九万円でした。

図は過去一年間の子牛価格の動向で、全般的に前年を下回っていますが、昨年四月から実施の牛肉輸入自由化による影響はないとみられています。

昨年の本町の市場上場頭数は一千一頭で、目標の一千頭を達成。販売額は四億一千三百万円余りとなっています。

スポーツ大会結果

綱引きは除雪隊と蔵が優勝

《第2回バドミントン大会》

1月26日・参加10チーム

【一般ダブルスの部】▼優勝・畠山春子（大吹川）、遠藤千津子（新町）▼準優勝・竹本吉雄（羽後町）、渡部嘉彦（同）

【バトミントン協会の部】▼優勝・鎌田敏（黒瀨）、鎌田宏章（黒瀨）▼準優勝・佐藤信吾（羽後町）、大野正雄（同）

《第3回家庭バレー交流大会・決勝》2月23日

▼優勝・マルサカソーイング▼準優勝・秋田ルビコン

《第5回町民綱引き大会》同・参加男子6、女子4チーム

【男子】▼優勝・役場除雪隊▼準優勝・ポパイスポーツクラブ

【女子】▼優勝・蔵スーパーレディー

ス▼準優勝・下通



写真は第2回バドミントン大会(1/26)
撮影＝高橋勝義さん(町バドミントンクラブ)

カガク

池部 留美さん (20歳)
袖山・荘内証券(本荘市)勤務



現在本荘市の「荘内証券」に勤務し、事務の仕事をしています。夏場は自宅から自動車通勤していますが、冬場は遠距離の上降雪で道路状況も悪く、市内にアパートを借りて生活しています。今、道路整備が着々と進行されているようですが、一日も早く広い安全な道路が完成してくれることを願っています。

を願っています。ところで、私は休日には大抵、友達とドライブに行くかスポーツをしています。今のシーズンだとスキーに明け暮れています。昨年の夏場は町の健康増進センターをフルに活用させていただきまし。今年はテニスにチャレンジしようとして張り切っています。自分の町にある施設はこれからも大いに利用していきたいと思っています。さて、私も社会人三年目に突入しようとしています。町が将来の発展のために様々な計画を立てているように、私自身も目標を持ち成功させていきたいと思っています。今回は、畠山好彦さん(20歳・宇戸坂)にリレーします。

歳時記

ヒバリ

ヒバリはピーチクパーチクときえずる鳥としておなじみで、鳴き声はよく知られています。その姿は……あまり印象に残っていないという方が、多いのではないのでしょうか。

ヒバリは、麦畑や草むらの中に巣を作り、外敵から身を守るために、地面の色に似た灰色かった褐色をしています。派手な鳴き声に似ず、姿は地味です。ヒバリの雄は、繁殖期になると、縄張りの上を舞いながらさえずります。巣に戻るときは、巣の位置

を知られないために、少し離れたところに下り、歩いて巣に戻ります。しかし、飛び立つときは、巣から直接飛び出します。

むかしはヒバリを捕えて飼育し「ヒバリかご」という背の高いかごに入れて、その鳴き声を楽しむ風習がありました。揚げヒバリといって、かごから空に飛び立たせ、またかごに戻らせるといった遊びもありました。このように、ヒバリを捕えて飼育するために、ヒバリ笛というのがありました。細い竹のなかに水を入れて吹き、ヒバリのさえずりに似た音を出して、ヒバリを誘うのです。現在は、野生動物であるヒバリを捕えたり、飼育したりすることは禁じられています。自然の声を楽しみましょう。



気になる看板!! しやれた名前!

大琴小学校だより「たかだて」第30号
(二月三日発行)より

さて、呼び方で気になることがあります。毎朝通ってくる国道でトンネルや橋の工事を行っています

が、「奥名免橋」「向田新田橋」では呼びにくいし、覚えにくいと思いますか。

(前省略) 国鉄がJR、電電公社がNTT、専売公社がJT、ファミリーデパートがJ.C.、そして農協もJAで仲間入りですね。アルファベットで呼ぶと近代的にひびくから不思議です。

もちろん、橋のかかる場所や地名がそうであるから、そのように命名することはわかります。法律的にそのように命名するようになってくるのかも知れませんが、私は公募して、もっと素敵な名前を

つけてほしいと思います。

大琴にかかる橋であれば、「琴の音橋(ことのねばし)」や、畑村にかかる橋であれば、「花畑橋(はなばたばし)」など、川の名が高瀬川(標柱は石沢川)ですの

で、もっと文学的なロマンチックな橋名であつたらなあと思います。農協がJAになる時代ですから……ついでに、気になる看板についても一言。大平スキー場の案内看板がローマ字でO.E.R.A.(オーヒラ)になっているのはどうしてでしょうか。ヒュッテは大平をオーヒラと読ませているのでしょうか。オオダイラ、オーヒラ、他の町の方はタイヘイともいいます。東由利スキー場、大琴スキー場の方がはつきりするような気がします。「東由利のオオダイラ」、「大琴を通して行くオオダイラ」と説明しなくてもいいようにしたいですね。

東由利の文芸

せせらぎ句会(二月会)

- ◆一しきり吹けば樹永の太りけり
- ◆枝々が樹永に太り陽にこぼる
- ◆霧氷林越えて眉毛を指で拭く
- ◆蒼天やしばし樹氷に独り言
- ◆烈風にはかなく散りし霧氷かな
- ◆大小の樹氷狭庭の花と化す
- ◆樹氷林輝き競ふ自然の美
- ◆病む妻に樹氷見せたき垣解きて
- ◆星満天山裾つづく樹氷林
- ◆日輪や樹氷妖しき貌をもつ
- ◆樹氷林眉剃りの月残しけり
- ◆養田橋守り樹氷の大けやき
- ◆歩を止めて見上げる樹氷大けやき

- 小松順之助(中通)
- 小野貞子(蔵新田)
- 小松正昭(家の下)
- 阿部ナミ(蔵)
- 小笠原トミ(蔵新田)
- 阿部澄子(蔵)
- 菊地常作(湯出野)
- 鈴木要(沼)
- 遠藤トミ子(小倉)
- 高橋ヒデ子(横渡)
- 小松メサコ(下小路)
- 佐藤正義(湯出野)
- 小松徳蔵(湯出野)

猿の地蔵おくり

語り・長谷山長四郎さん（館合新田）
文と絵・石渡力造

ふるさとの
昔ばなし

24

むかしむかし、雪解けのメタダレ沢の山に働らき者の村の爺さまが木を伐りに出かけた。仕事とおえて、帰りの山道を歩いていると、松の木の下に立っている地蔵さまに、猿が何匹も出て来て押んだり物を供えたりしてゐるのだよ。

爺さまは、次の日帰りの山道で地蔵さまのまねをしておった。『あれっ、もつたいないことじや。みんなで川向うの山のお堂まで運んでおまつりしよう。』と一匹の猿は仲間の猿を呼び、手車を組んで爺さまの地蔵さまをその上に乗せ、運びだしたのでおの。

猿たちは、ワッショイ、ワッショイとかけ声をかけながら、マンサクのめんこい花が咲いている谷川の岸にさしかかると『さあ、みんなだ地蔵さまをぬらすと罰あ

のか、たくさんのお賽銭や餅、米などを爺さんの前に供え、みんなどこかへ行ってしまった。爺さまは、そのお供えをいただいて家に帰った。その話を聞きつけた隣の欲ばり爺さまは、『よし、おれもまねして見るべ』



たるとおと」と、かけ声を合せて谷川を渡りだした。『猿の尻ぬらしでも、地蔵の尻ぬらすな。ワッショイ、ワッショイ』と、囃したてるんだ。猿たちは爺さまを山のお堂にかつぎこむと、どこから持ってきた

と山に出かけた。山道に立って地蔵さまのまねをしていたら、猿たちが出て来て、手車に乗せて谷川を運んで行った。『猿の尻ぬらしでも、地蔵の尻ぬらすな。ワッショイ、ワッショイ』。猿たちのおかしなかけ声に、欲ばり爺さまは吹き出しそうになったが、ここが我慢のしどころとぐつとお腹に力を入れてこらえだ。あんまりお腹に力を入れすぎてしまい、おもわずプーッと屁をもらしてしまった。猿たちは、『あれえつ。地蔵さまが屁するはずがない、こりやにせものだ。』と、いきなり手車をといて、欲ばり爺さまをドボーンと谷川へおとした。ぬれぬずみになった爺さまは、やつとのことで家に帰った。おとつとつぴんからりん山しよの実。

教師のつぶやき

せんせい登場



校歌の練習

高瀬小学校・菅原あゆ美先生

三学期も半ばになり、本校では卒業式等にむけて、歌や鼓笛の練習が始まっている。朝八時を過ぎると、最近学校はにぎやかだ。今はちょうど、体育館に全校が集まって「校歌」の練習だ。最初は校歌の意味から……

仰ぐ大空 日は輝いて
緑あふれる 東由利
高瀬の流れ 今日清らか
瞳明るく 学びの道を
共にはたらつ 手を取り合つて
たゆまず励む 高瀬小学校

この歌詞は、体育館の全面に大きく掲げられている。でも、はるかしながら、私は本校に赴任してから今まで、この歌詞を暗記して歌うことができなかった。ところが、一度全校の前で意味をつけて説明したら、私のほうが歌詞を覚えてしまった。いつもは何気なく歌ってきたが、この短い歌詞に、なんと深い意味がこめられているものだろうか。東由利のすばらしい自然と、その中で元気に仲よく過ごしてゆく子どもたち。

これこそ、子どもをとりまく私

たち大人が、それこそ『手をとり合って』守り育ててゆかなければならないものだろう。意味を説明しながら、子どもたちを見ていたら、急に愛しくたまらなくなつた。みんなの瞳がきらきらしていた。この歌詞に恥じないような子どもたちに育ってほしいと思う。私も、そのためにがんばりたいものだ、という気持ちを新たにしたいときだ。



保健婦の

快適タイム

おやつは、良い習慣で

子どもにとって、おやつは食事より楽しみなものです。栄養面でも大切な働きをします。子どもは日ごとに成長し、しかも起きている間中、動きまわっていますので、必要とするエネルギーは、かなりの量に達します。しかし体が小さいので、必要量を3度の食事でカバーすることはなかなか困難。そこで、おやつの出番というわけです。

おやつには、個人差がありますが、一般的に一日の総エネルギー量の10〜20%くらいが適当といわれています。

おやつとしては、果物類、ビスケットやパン、スナック類、ヨーグルト、ゼリーなどがよくメニューにのびりますが、砂糖や脂肪の多く含まれているケーキやチョコレート、カロリーが高く塩分も多いポテトチップスのようなスナック類は、与え方に十分気をつけたいもの。与え方を誤ると次の食事にてきめんに響きますし、食事を取らずに間食ばかりほしがるという悪循環を招きます。

幼児期は、よい習慣をつけるうってつけのとき。おやつの前には手を洗い、食べた後は歯を磨くなど、ぜひ一緒に習慣づけましょう。

（保健婦・高橋鈴子）

ねんきん通信

障害者と老齢年金

Q

障害のために、二十歳から障害基礎年金を受けています。

国民年金の保険料は免除されていますが、年をとったときの老齢基礎年金はどうなりますか。

A

障害基礎年金を受けている人は、国民年金の保険料は法定免除とされています。納めなくてもよいこととされています。ただ、この保険料免除期間は、老齢基礎年金の計算のうえでは、保険料納付済み期間の三分の一となります。（追納といって過去十年前まではさかのぼって納めることもできます）

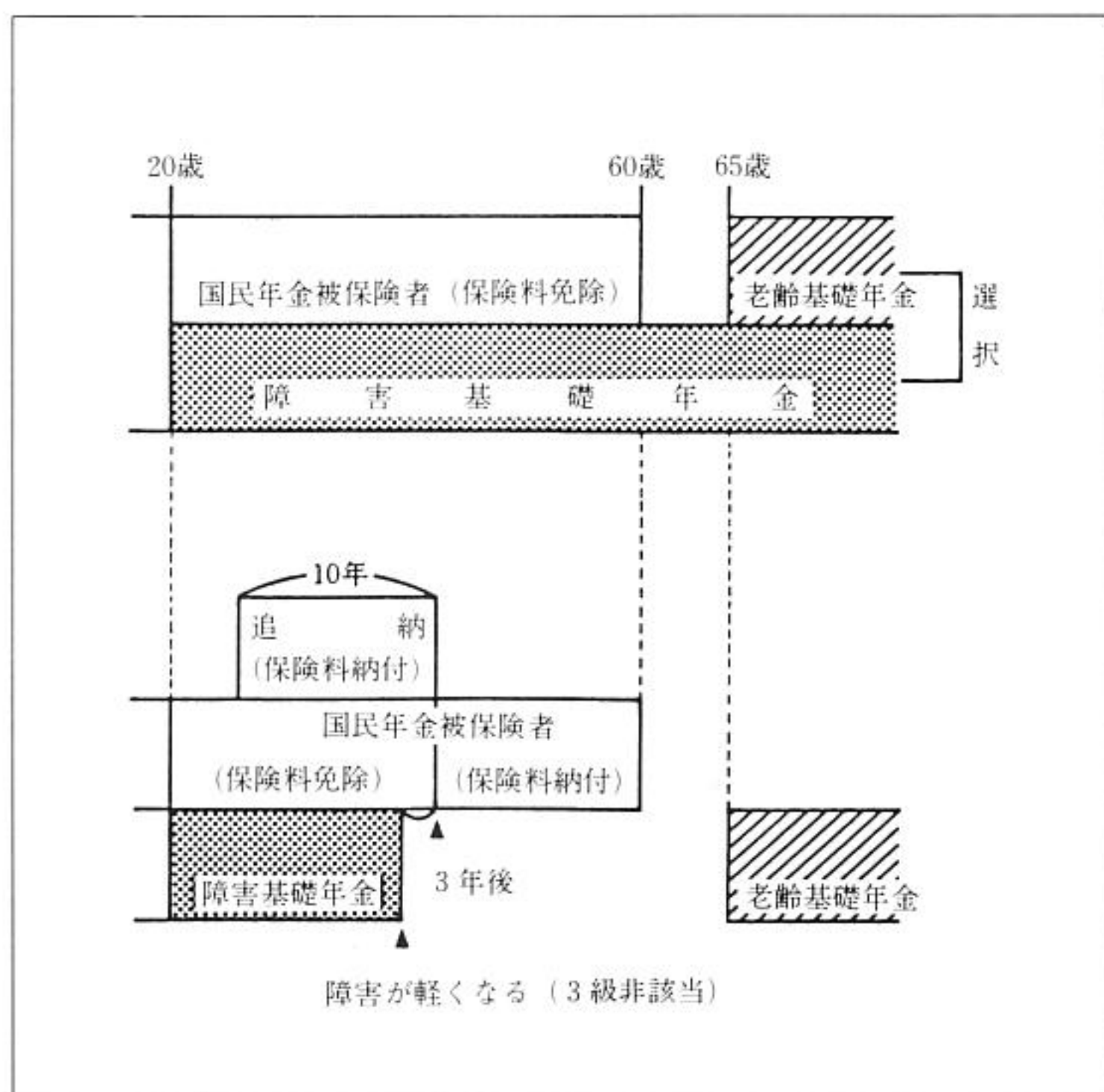
一方、障害基礎年金と老齢基礎年金の両方が受けられる場合は、いずれか一方を選択することになっております。ちなみに、二級の障害基礎年金と四十年間保険料を納めた場合の基礎年金の額は同じで、一級の障害基礎年金は二級の障害基礎年金の二五％増しとなります。ですから、四十年間保険料を免除された場合の老齢基礎年金

よりも、障害基礎年金の方が多い額になります。したがって、障害基礎年金の方を選択すればよいわけです。

ところで、障害基礎年金は障害の状態が軽くなれば受けられなくなります。つまり、二級障害が軽

くなって三級に該当している間は支給が停止され、三級にも該当しなくなつてから三年を過ぎますと、障害基礎年金は失権します。その場合には、保険料を納めることになり、将来老齢基礎年金を受けられますが、前にも述べましたように、年金額の計算で免除を受けた期間については、三分の一の評価になることと、過去十年前の期間については、追納できますので、追納による老齢基礎年金の増額をお勧めします。

図を参照して下さい。



献血ありがとう

2月24日・太字は400ml献血者

小松 正二	長谷山 宗市	小松 正二	長谷山 宗市	小松 正二	長谷山 宗市
藤原 正樹	小野 博子	田代 一広	高橋 美和子	佐々木 信幸	伊東 健市
小松 健	小松 俊太郎	小松 五緒子	遠藤 雅晴	佐々木 奈穂子	
遠藤 卓哉	小松 芳雄	渡辺 サキ	阿部 豪	小野 源一	
佐藤 芳雄	古関 和枝	井口 茂和	国井 修	畑中 剛	
阿部 由起子	石橋 万里子	猪股 寿和	猪股 友子	猪股 友子	
大場 里美	小松 千司子	猪股 寿和	猪股 友子	猪股 友子	
小松 千司子	小松 千司子	猪股 寿和	猪股 友子	猪股 友子	
小野 一子	小野 一子	猪股 寿和	猪股 友子	猪股 友子	

本町三歳児の「虫歯患率」が郡内トップ——というデータが、昭和六十二年の県歯科疾病実態調査に出ています。これによると、中歯患率は九一・五％で、郡内平均より一六・八％、県内同より二〇・一％高く、全国レベルにあっては三六・四％も高いという実態が明らかにされています。ちなみに、同虫歯本数は一人当たり平均六・九本で、全国平均の二・八本を二倍以上も上回っているという衝撃的な数字となっています。

町ではこうした実態を重くみて、住民の歯科保健意識の高揚と歯科保健水準の向上をめざし、このほど本町保健所の協力で「町歯科保健連絡協議会」を設置しました。

この協議会は、行政や歯科医師、学校、保育所、住民等が一体となって歯の健康づくりを推進し、単



2月4日に開催された町歯科保健連絡協議会

「歯科保健連絡協議会」設置へ

に健康診断や啓発に留まらず、地域ぐるみで多面的に歯科保健活動に取り組んでいくことを目標としています。

メンバーは地元歯科医師、養護教諭、栄養士、保育所のほか、住民サイドから愛育班員や小・中学校PTA、保育園父母の会代表などで、今後情報交換、調査・研究や町歯科保健事業計画への提言などを行うことにしています。

ヨーロッパ研修レポート(3)

教育委員会社会教育係長・小松 長 敬

見るものすべてに感動の10日間

町民海外研修(11/15~25)と並行して実施した町職員海外研修参加者(三人)のレポートを三号にわたり掲載しています。

◎ ◎

十一月十五日夕方、町公民館に集結、出発ラインに就く。一室には「いい日旅立ち、フライト91」と書かれた手作りの看板と万国旗が掲げられていた。感激である。海外に立つという実感が、除々に高まってきた。

この研修は十日間という旅程で

あり、専門的な分野での研修はできないにしても、生活や文化など思想の異なる人々との交流の中から体験できる貴重な機会としてとらえ、フライトした。

大海の広さ実感

初めて海外の地を踏んだのが、オランダの都アムステルダムである。成田から十二時間という飛行に、いささか疲れを感じたが、眼下に広がる異国の地オランダは、整然とした広大な耕地に緑の色が

点々と映え、その鮮やかな風景が疲れを一瞬に取り去ってくれた。

アムステルダムは飛行の乗り換え点であったので、風車のある風景を観ることはできなかったが、

空からの夜景を満喫しながら、最初の宿泊地であるドイツのフランクフルトに向かい夜間飛行した。

乗り継ぎの空港で、旅行カバンの積み降ろし作業を見てがく然とさせられた。成田を立つときは、

見ていなかったのだからないが、スーツケースを機外に降ろす時の扱いは乱暴そのものであり、壊れ

はしないかとハラハラしながら眺めていた。飛行体験のない者が感じることなのだろうか……。

またガイドブックには、「スーツケースが同便で着かないことがまれにある」と記しているところ

でも、大海の広さを感じたところであり、空から見たものと、目の前にして営まれている事とのギャップが大きく、これからの旅程に

一抹の不安を感じた。自分の思う非常識が、この国では常識なのだろうか。

看板にお国柄を見る

研修旅程の交通手段はほとんどが中型のチャーターバスであり、

ドイツでの走行が三百〜五百キロというハードな日もあったが、道路事情が大方よく、快適な旅を続けることができた。また、一部分

の道路しか走っていないが、道路の法面や中央分離帯に植栽されて

いる並木も、清掃などの管理体制が行き届いている点に注目した。

特に、道路や町の中に設置している標示板は、地名の案内板や道路標識くらいのもので、シンプルな標示が景観をさらに高めているように感じた。私たちの地域では、

道路などに掲げている看板があまりにも多すぎるのではないだろうか。看板こそが町づくりの必要不可欠なものと思いつつ、果たして

どうだろうか疑問を感じてきた。たとえば、今、自分が関わっている仕事の中でも、美化を進めるための運動看板、青少年健全育成のための標語などは、人の目を引く

ところに設置するのが当然のことであると認識してきてた。しかし

ここでは、美化も健全育成も日常生活の中でとらえるもの、自分自身で、周囲の人たちとの関わりの

中で実践されるもの、あえて皆で進める運動看板などは不要である、とするお国柄であるように思えた。

また、道路に布設しているガードレールは、急な坂や急カーブは別にしても、非常に少ないことも目についた。設置する財源がないからではなく、そこにはきちんとした理由があると思った。中世の

町を巡るロマンチック街道を走ったときは、数百キロの路程であったが、現代のような安全施設は全くなかった。周囲の景観は中世の

香りをそのまま残しており、ここにその理由があったように思う。

「もっと知識広めたい」ドイツのディンケルスビュールという小さな町でショッピングをする時間があり、店に入ってみた。店員の中に日本人がいたので、声をかけてみた。「ここに住んでみてどうですか?」と聞いたところ

「のんびりしていい町ですよ」と返ってきた。この言葉が、店内で扱っているお土産用のオルゴールの静かな音と非常にマッチしていた。

初めてのヨーロッパの旅。私にとって見るものすべてが感動となつた十日間だった。これを機会にもっと知識を広め、これからの町づくりに生かしていきたい。



フランス・パリのノートルダム寺院にて

85

ヒメクグ
(カヤツリグサ科)

文・写真 小松忠正



日あたりのよい、湿り気のあるところに群生する10〜20センチほどの多年草で、繁殖力が強く、減反した田んぼや苗代などでは勢よく繁茂します。根はしっかりと鬚根で、地下茎はやや紫色を帯びることがあります。葉は軟かく、細い

線形をして穂の下に接して下向きにつけます。八月から九月頃にかけて茎の上に緑色で7〜1センチぐらいの球形の穂をつけます。ヒメというのは形が小さくかわいいということですが、クグという語源は分かっています。

3月 (1/1 ~ 1/31)
町のミニ統計

- 人口 () は前月比
- ・男 2,799人 (△6)
- ・女 2,950人 (△2)
- ・計 5,749人 (△4)
- 世帯数 1,418戸 (△1)

() は1月からの累計

- 出生5人(5) ●死亡6人(6)
- 転入9人(9) ●転出12人(12)

- 火災出動……0件 (0)
- 救急出動……10件 (10)
- 交通事故……0件 (0)
- ・死者……0人 (0)
- ・傷者……0人 (0)
- 飲酒運転……0人 (0)
- 酒気帯び……0人 (0)

3 町民カレンダー

- 4・3月定例議会
- 6・2歳児健診 (有鄰館13時〜)
- 8・水稻育苗講習会 (同)
- 10・健康大学、成人病予防学級 (同)
- 14・東由利中学卒業式 (10時〜)
- 16・八塩小卒業式 (10時〜)
- 17・高瀬小、大琴小卒業式 (10時〜)

海外研修に県が助成します！

県民が自主的に行う海外研修に、県が助成しています。助成額は滞在費の半額で、個人は最高30万円、団体 (10人以上) は同150万円です。

募集期間は前期が2月16日〜3月31日、後期が7月16日〜8月31日です。詳しい資料は役場総務課にありますので、お問い合わせください。



町社会福祉協議会に小笠原宇一郎さん (蔵新田)、遠藤房三さん (新処)、村上喜夫さん (石高) から金一封のご芳志が届けられました。ありがとうございました。

戸籍だより

●お誕生おめでとう

(121〜20届出)

小野 慎也ちゃん (幸喜 美加 長男) 上里

浅田 明美ちゃん (誠 江美子 長女) 大琴

小松 慧斗ちゃん (敏貴 久美子 長男) 下通

高橋 麻美ちゃん (正 真智子 二女) 五海保

佐藤 隆さん (律 沢 小松 宮子さん) 石高

●ご結婚おめでとう

●ごめい福をお祈りいたします

大日向ハツエさん (79・国太郎・妻) 宮ノ前

小松トモヨさん (86・安男・母) 田代

小笠原セツさん (83・宇一郎・母) 蔵新田

小松 留蔵さん (56・ミエコ・夫) 久保

小松庄治郎さん (88・サヨ・夫) 松柴

小笠原喜一郎さん (83・宗一郎・父) 蔵新田

村上 作蔵さん (76・セキ・夫) 石高

広報カラー スナツプ

冬花火

撮影/2月8日



大平雪まつりの目玉「冬花火」。今年も町内企業などの協力で46発の単発花火と2台のスターマインが打ち上げられました。美しさは夏の花火をしのぎます。

▼町勢要覧「フォーラム東由利」の資料編として、先に「データ東由利」をお届けしておりますが、お年寄りの方々から「見にくい」「統計の文字が小さすぎる」などのお叱りを受けています。デザインにウエイトをかけ過ぎたため、ご年輩の方々に対しては言語道断のことであり深くおわびいたします。高齢者比率が二〇%を超えた本町にあって

編集室から

て、今後特に気を配っていかねばならないことだと痛感しております▼さて、今年度最後の広報ひがしゆりをお届けします。児童減少の特集は暗い話題ですが、人口の高齢化、若者の減少と連動した町最大の問題です。町民みんなで真剣に考え、知恵を出し合い「明るく元気の出る町」にしていきたいと思っております。ご意見・ご提言をお寄せください。